土台を据える

「終末」

まず宣言しましょう。教会の礼拝でよく用いられる有名なみことばです。ユダへの手紙の最後の 2 節です。

> *「あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、すなわち、私たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン。」*

神は、ご自身の栄光の御前に、傷のない者として私たちを立たせることができるお方です。私たちが仕えている神は、何と素晴らしいお方なのでしょう。

さて、これまで基礎の教理の最初の 4 つを学びました。少し復習しましょう。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、バプテスマについての教え、そして手を置くこと（按手）です。

前回の学びは、「神の力を分け与える」で、按手の具体的な意味についてお話ししました。みなさんの中には、教会の奉仕や教会生活において手を置くということの重要性を知って、驚いた人もいるでしょう。

あと 2 つの教えが残っています。「死者の復活」と「永遠のさばき」です。それを学ぶ前に、「終末」というテーマでお話ししたいと思います。というのは、残り 2 つの教えは、時間を超えた永遠について学び、理解しなければならないからです。これは重要なことで、私たちは現在の人生にだけフォーカスすべきではありません。多くのクリスチャンは、今の人生で神が自分のために何をしてくださるのかということしか考えていません。しかし、それは、神が私たちのために持っておられるもののほんの一部に過ぎません。

黙示録 10 章を読みましょう。私は哲学を学んだので、時に特定の考えに縛られてしまうことがあるので、注意深くお話ししなければなりません。黙示録 10：5-6 で御使いが語っているところです。

> *「それから、私の見た海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて、永遠に生き、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを創造された方をさして、誓った。『もはや時が延ばされることはない。』」*

「もはや時が延ばされることはない」という訳は正しいかもしれませんが、実際には、「もう時間は残されていない」です（新改訳 2017 は、「もはや時は残されておらず」となっている）。私たちは遅かれ早かれ、人生の時間に終わりがやって来ます。ある人がこう言いました。「すべての時計の背後にある時計は人間の心臓であり、人間の心臓が鼓動を止める時、すべての時計は時を刻むのを止める。」私たちひと

り一人が、時間という領域を出て、新しい領域である永遠の領域の中へと入っていくのです。

永遠とは、単に長い時間ではなく、私たちがほとんど理解できない、まったく異なる領域であることを忘れないでください。

私は、「神が創造した神秘」という言葉に感謝しています。時というものは神秘的だからです。これは哲学者として私が 50 年以上前に深く研究して知ったことですが、聖書は非常に明確に時間の神秘さについて書いています。物理学者によると、ある科学者たちが光の半分の速度で移動する宇宙船に乗って、遠くの惑星や星に 2 週間旅して戻ってくると、実際の地球の時間では 2 世代の時間が経っているだろうということです。戻ってきた時には、ひ孫に会うのです。まるで浦島太郎のようです。時間とは神秘的です。

時間について、もう一つお話ししましょう。私たちの時間の理解というものは人間の観察によります。たとえば、科学者はこう言うかもしれません。「特定の谷や特定の石などに特定の堆積物が蓄積するのは、それが 100 万年ぐらい経過しているからだと考えられる。」そう信じることもできるかもしれませんが、私は 100 万倍の速さで起こったと考えます。つまり、1 年しか経過していないかもしれないのです。どちらにも根拠はありません。言い換えれば、個人の観察のインプットによって、時間が決められるということです。それが神秘であることを私は喜んでいます。しかし、私たちは、いつか時間を超えて永遠に入っていくということを忘れないでください。

II コリント 4：17 は、永遠のものと一時的なものの違いについて語られています。パウロは言っています。

「今の時の軽い患難は…」

パウロが経験したすべてのことを考え、それらを軽い患難だと言っているのを考える時、あなたはいったい何について心配しているのでしょうか。パウロの困難は、とても軽いとは言えないようなものばかりでした。

「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。」

あなたが抑圧の中にある時、いつもこの聖句を思い出してください。それはあなたのうちに働いて、測り知れない重い永遠の栄光をもたらします。ヘブル語で「重み」という語と「栄光」という語は本質的には同じです。つまり、パウロはヘブル語でユダヤ人として考え、神が私たちに用意してくださっている栄光の重みについて語っているのです。18 節。

「私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。」

患難はあなたが永遠に目を留め続けている間だけ、あなたの人生に良い働きをもたらします。もし、永遠から目を離し、あなたの問題にだけ目を向けて、自分を不憫に思い始めたなら、その患難は何の良いものももたらしません。18 節の続きです。

「私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」

パウロが私たちに 2 つの異なる領域を提示しています。目に見える、物理的・物質的で一時的な領域と、目に見えない霊的で永遠の領域です。この世の時の流れの中で私たちが出会うすべてのことは、一時的です。しかし、私たちは永遠のものに向かっているのです。

それを心に留めておくことが大切です。最近読んでいるデボーションための本を用いて、非常にシンプルな言葉を私と妻は分かち合っています。その本には、私たちは堕落した世界に住んでいると書かれています。それは事実だと思います。客観的かつ率直に言うと、この世では幸福よりも悲惨なことの方が多く、平和よりも争いの方が多く、健康より病が多くあります。バラ色の世界を描くことはやめましょう。そうではないからです。私たちは完全に崩壊し、罪に満ちた堕落した世界に住んでいます。それが私たちのいる世界です。私たちの最終的な目的地がこの世界ではないことを神に感謝します。

パウロが I コリント 15：19 で言っていることは、私にとって実に衝撃的でした。多くのクリスチャンがそのようであると感じているからです。

「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。」

少し考えてみましょう。もし、あなたがキリストに期待していることがすべて、この人生におけることだけだとしたら、あなたは一番哀れな者です。それなのに、今の人生に起こることに完全に翻弄されている多くのクリスチャンに出会います。彼らのキリスト教の概念は、新約聖書の姿とは全く違うもので、この世で神から受けることなのです。私たちひとり一人の人生の中で、時の終わりと永遠の始まりを考えるように聖霊によって促されることは、とても健全なことです。

ヘブル 13：14 はこう書いています。

「私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。」

あなたもそうですか。あなたの永住の地はどこでしょうか。この世でしょうか。それともこの世は一時的なものに過ぎないと気づいていますか。私たちはこの世を通り過ぎているだけです。私たちの変わらない目的地は永遠にあります。時間と永遠のことしか見ていないなら、あなたは欲求不満な人になってしまいます。いつも、「物事が思い通りにいかない、神は私の祈りに答えてくれない」と不平を言うでしょう。それは、あなたが間違った見方をしているからです。永遠という視点で見なければならないのです。

私は次の結論に至りました。神は最も長い時間のために、永遠の最も小さな部分を犠牲にされないと。いつまでも続くものは時間ではなく、永遠だからです。あなたは人生の中で永遠のためにどれだけのものを築き上げていますか。箴言の中で、神は知恵を通して尊い宝物（新改訳 2017 では「朽ちない財宝」）

を私たちに与えてくださっていると言っています。私は、尊い宝物とは何であるかと長い間考えました。銀行にあるお金でもなく、株や資産でもなく、高級車でもなく、住居やプールのことでもありません。それらのどれも尊い宝物ではありません。では、尊い宝物とは何なのでしょうか。イエスは言われました。

「あなたの持ち物を全部売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。」

それが尊い宝物、朽ちない富です。イエスは言われました。

「福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。」

百倍とは、1万％です。1万％のチャンスを断るビジネスマンはいないでしょう。

もう一つ、重要なことがあります。私たちの賜物は、この世での人生が終われば消え去ります。私たちの霊的賜物、預言、奇蹟、知識のことばは、すべて終わりを迎える時が来ます。私たちはそれを伴っていくことは出来ません。それらはこの世だけのもの、時間のためだけのものです。しかし、私たちについて来るものが一つあります。何でしょうか。私たちの人格です。人格は永遠のものです。私たちの人格の中にあるものが、私たちが永遠にどうあるかを決定づけます。それは永続的で、尊く朽ちない宝物、純粋で強く敬虔なクリスチャンの人格を築くものです。

では、今回のテーマに戻りましょう。聖書的な預言を理解することは非常に重要です。残念なことに、多くの人が偽りや見かけだけの薄っぺらな預言の解釈に振り回され、確信を失ってしまっています。そのようなことがあなたに起こらないようにしてください。良いものを誤用することによって、あなたを良いものから遠ざけさせないでください。たとえば、私は長い生涯の中で、あらゆる霊的賜物が間違って用いられているのを見てきました。だからと言って、私が聖霊の賜物を軽んじるようなったのではありません。そのことを知って、私は賜物の用い方にさらに注意を払うようになりました。聖書的預言の真理も同様です。私たちには聖書の預言が必要であり、それがなければ、私たちは暗闇でつまずいてしまいます。適用のしかたに注意する必要があるのです。
IIペテロ1：19-21を開けましょう。

「また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。」

「預言のみことば」とは、書かれた預言、すなわち聖書の預言です。預言の賜物は私たちの生活の中で重要な役割を果たしますが、今はそれについて話しているのではありません。さらに確かな、書かれたみことば、つまり聖書の預言について言っています。

「暗い所を照らすともしびとして…」

あなたは預言的なみことばを軽視する立場にはありません。ペテロは、預言的なみことばは暗闇で輝

く光なので、十分な注意を払うようにと言っているのです。今日私たちが住む世界は紛れもなく暗闇です。そして、ますます暗くなってきています。私たちには暗闇で私たちを導いてくれる光が必要です。神が与えてくださるその光は、みことばの預言的啓示です。

あなたは素晴らしい救いを受け、良いクリスチャンになることができても、預言の光を用いなければ、暗闇を歩むことになります。暗闇を歩むなら、遭遇する必要のないものにつまずき、どこへ向かっているのか分からず、あなたの周りで起こっていることが理解できなくなります。それは、預言のことばの真理をとらえることに失敗するからです。これは大変重要なことです。
そして、ペテロは次のことに心を留める必要があると言っています。

> *「夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、それに目を留めているとよいのです。」*

これはイエスの再臨のことではありません。夜明けの太陽が輝く直前の明けの明星が私たちの心に輝くことを、内的、主観的、個人的に経験するということです。それがしてくれることは何でしょうか。イエスが戻って来られることを教えてくれるのです。わくわくします。

もし主の再臨に興奮したことがないなら、再臨はあなたにとってほとんど意味がありません。それは、人間にとって唯一の希望です。人類が切望する必要を満たすものは他にはありません。再臨は、はかない望みだと言う人々がいますが、私はそうは思いません。確かに現実的なものだと信じます。事実、政治家が人類の問題を解決してくれるのを期待するのは、まったく非現実的だと思います。政治家たちは長年試みてきましたが、混乱は以前よりも悪化しているように思えます。人類の問題を、人間が解決することを期待するのは非現実的です。それがヒューマニズムの教えで、ヒューマニズムは今日の世界の大部分の政府で働いている反キリスト的な力です。

ですから、私たちには預言が必要なのです。その確信を持っていますか。ペテロは、預言は人から生じたのではなく、神から来るものであると言っています。

さて、聖書の預言を理解するための 2 つのカギを簡単に紹介しましょう。申命記 29：29 で、モーセはイスラエルの子どもたちにこう言いました。

> *「隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし、現されたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。」*

つまり、モーセは隠されていることと、現されたこととの 2 種類があると言っているのです。隠されていることは神のものであり、誰もそれを理解することはできないと言っています。現されたことは、私たちが行うためのものです。預言の学びを台無しにする主な理由は、隠されたことを理解しようとするからで、また同時に、現されたことに従わないからであると私は思います。

私が預言について語り終えた後、ほとんどいつも誰かが私のところに来て、こう尋ねます。「前か、中か、後ですか。」何のことを言っているか分かりますか。前患難、患難の中、患難後のいつの預言かと質

問しているのです。私はどう答えると思いますか。「わからない」です。それを恥ずかしいとは思いません。さらに言うと、誰もその時を知らないと思います。イエスでさえ知らないでしょう。というのは、その時がいつ、どんな時かは御子でさえ知らない、父だけが知っていると書いているからです。ですから、イエスが知らないことを私が知らなくても、恥ずかしくはありません。問題は、人々が知らされないことを知りたがることなのです。知りたがる動機は何だと思いますか。高慢です。それはすべての動機の中で最も危険なものです。もし、私たちが現された真理を知ってそれに従うなら、神は私たちにさらに多くを与えてくれます。もし従わないなら、それ以上与えてはくれないでしょう。「神さま、どうか次のものを見せてください」と言っても、神はこう答えます。「あなたは私がすでに示したことを行わなかった。なぜ、これ以上示さなければならないのか。」

それが聖書の預言を効果的に用いるカギです。神が私たちに理解してほしいということを知ってください。そして、神が私たちに理解してもらいたくないことについて神を煩わせないでください。

次に、神があなたに示してくださることは何であれ、従い、行なってください。聖書の預言の一つの明確な啓示は、マタイ 24：14 の中にあると私は考えます。

> *「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」*

終わりの日は、いつ来ますか。この御国の福音が全世界に宣べ伝えられ、すべての国民にあかしされるときです。それは誰の仕事ですか。私たちです。もし私たちがその働きをしていないのなら、その啓示に従っていないのなら、どうして神はそれ以上のことを私たちに教えてくれるでしょうか。しかし、あなたがその啓示に取り組み始めたなら、どのような形であれすべての国民に御国の福音を伝えることに献身し始めたなら、神がその次のことを示してくれることに驚くでしょう。しかし、あなたが実行しないなら、神はそれ以上のことを示してくださいません。

この終わりの時代の様子に戻りましょう。この時代が終わりに近づき、どのようなことが起こるのかについて一般的な意見を述べたいと思います。これは私の個人的な意見ですが、終わりの日にかなり近づいていると信じます。私は日付を設定したくはありませんが、書かれているすべてのことが今後 50 年以内に起こるのではないかと思います。起こると言っているのではなく、「起こり得る」です。

終わりの時代の確かな特徴を取り上げましょう。3 つの重要な聖句を見ていきましょう。イザヤ 60 章です。終わりの日が近づき、正義と悪の両方が増えていきます。正義は栄え、また悪もはびこります。光は輝き、大いなる闇もあるでしょう。私たちは、光と闇、また正義と悪という正反対のものに適応しなければなりません。イザヤ 60：1-3 で、主はご自身の民にこう語っています。

> *「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちに歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」*

これは、終わりの時代にあたっての神の民への約束です。神の栄光が私たちの上に輝き、私たちを取

り囲み、すべての国々を四方からおおう暗闇のただ中で、真理を求める心を持つ人々が神の民のところへと光を求めて暗闇から出てきます。しかし、暗闇に終わりが来ると期待しないでください。暗闇は続き、さらに深い闇へとなります。しかし、光はさらに輝きます。

光と闇について、一つの素晴らしい事実があります。それは創造の時にさかのぼります。光と闇が出会うところはどこでも、光が勝つのです。それを忘れないでください。私たちが光であるなら、私たちは勝利します。

それから、麦と毒麦のたとえです。農夫が畑に良い種を蒔いたのですが、その夜、敵が来て毒麦を蒔きました。それは、見た目は麦のようですが、実をつけず、価値のあるものを何も生み出しません。畑の労働者は、「行って、毒麦を抜いてきましょうか」と言いました。農夫は、「いや、毒麦を抜こうとして麦も抜いてしまうかもしれない。収穫まで両方とも育つままにしておこう」と言いました。そしてイエスは、収穫とは世の終わりであると言いました。世の終わりには、御使いが来て、義人の中から不法を行う者たちを取り分けると言っています。不法を行う者どもは縛られ、火に投げ込まれ、義人は父の御国で太陽のように輝きます。しかし、世の終わりまでは、麦と毒麦は並んで育つということを忘れないでください。

それは異教の世界のことを言っているのではなく、クリスチャン世界について言っているのです。麦と毒麦が並んで育つという状況です。自分は毒麦ではなく、麦であることを確認したいなら、あなたの実がどのようなものかを確かめてください。そこに違いが現れるからです。

教会は世の終わりまでは、完全にきよめられることはありません。私たちがそれをするのではありません。それは御使いたちの役割です。

そして、黙示録 22 章という聖書の最後の部分のイエスご自身のことばです。黙示録 22：10-12。

> *「また、彼は私に言った。『この書の預言のことばを封じてはいけない。時が近づいているからである。不正を行う者はますます不正を行い、汚れた者はますます汚れを行いなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行い、聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。』」*

これは神からの注目すべき宣言です。神は実に、あなたが不正な者でありたいなら、続けなさい。あなたの命は短い。あなたが汚れた者となりたいなら、ますます汚れなさい。しかし、あなたが正しい者であるなら、いよいよ正しくありなさい。聖くありたいなら、ますます聖でありなさい。これが分岐点だからです、と言っているのです。
そして、イエスは続けて言っています。

> *「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」*

これは主の再臨の直前のことです。不法を行う者と正しい者が隣同士で並んでおり、不法者はさらに不法を行い、正しい者はさらに義になります。

霊的な光の中では、現状維持はありません。静止していることはできません。前進するか、後退するかのどちらかです。箴言は、「義人の道は、あけぼのの光のようだ。いよいよ輝きを増して真昼となる」と言っています。義は停止しているものではなく、進む道です。あなたの進む道です。もし、あなたがその中を進むなら、その光は日々輝きを増します。しかし、もしあなたが過去の光を頼りに今日を生きているなら、あなたは背教者となり始めており、義の道を歩んでいません。
そのどちらかです。

そして、このすべてのただ中において、イエスは、ルカ 21：25-28 で、私たちに慰めの素晴らしいことばを語ってくださっています。これは終わりの日についてのことです。

「そして、日と月と星には、前兆が現れ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、 人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。」

全地が揺り動かされるのです。

「そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。」

これがイエスの再臨です。イエスは弟子たちにこう語りました。

「これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上に上げなさい。贖いが近づいたのです。」

すべての混乱と争いに、どのように反応するでしょうか。失望と絶望に陥るでしょうか、それとも、「主をほめたたえよ。私たちの贖いが近づいた」と言うでしょうか。そのように、あなたの反応は、あなたの心がどこにあるかを教えるのです。

イエスは新しい時代の産みの苦しみについて語り、マタイ 24 章で説明しています。その箇所は少し後で見ていきますが、出産の苦しみは非常に大変なものです。私は子どもを産んだことはありませんが、決して容易な経験ではないことを理解しています。産みの苦しみという言葉は出産の苦しみに関連付けられています。あなたは子どもがほしいですか。子どもがほしいなら、産みの苦しみを忍耐するでしょう。産みの苦しみがなければ、赤ちゃんは生まれません。ですから、あなたがどう応答するかによって、自分の態度を知ることができます。状況がますますひどくなり、「なんて絶望的で、みじめなんだ。神さまはどこにいるのか。何もしてくださらないのか」と言うなら、あなたは産みの苦しみを拒否しているのです。それは、あなたは本当に赤ちゃんを待ってはいないということです。赤ちゃんとは何でしょう。地上に神の国が誕生することです。それは産みの苦しみなしにはやって来ません。産みの苦しみは必ずあるのです。私たちが決断しなければならないこととは、その苦しみにどう応答するかということです。

すでに言いましたが、同時に、これらのことすべてにおいて、教会には完成すべき役割があります。それは何でしょうか。すべての国民に御国の福音を宣言することです。マタイ 24：7 節から始まる、産みの苦しみの様子を見てみましょう。

「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり…」

Ethnos（民族）が ethnos（民族）に敵対するのです。民族の衝突です。

「国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。」

あなたは子どもがほしいですか。そうであるなら、産みの苦しみに耐えなければなりません。他の選択肢はありません。
そしてイエスは続けて言っています。

「そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」

ここに出てくる「あなたがた」とは、私たちのことです。人々は私たちクリスチャンを苦しい目に会わせます。私たちはイエスの名のゆえに、すべての国の人々に憎まれるのです。
10 節。

「また、そのときは、人々が大ぜいつまずき、互いに裏切り、憎み合います。」

大ぜいとは誰でしょう。大勢のクリスチャンです。その圧力はものすごく、多くの人があきらめてしまいます。自分を守るために仲間の信者を裏切ります。これは、中国やソ連で一世代、あるいは二世代にわたり起こっていることです。それは、そこだけにとどまりません。
11 節。

「また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。」

また、信じて下さい。この世はにせ預言者であふれており、その多くは教会の中にいるのです。それについて詳しく触れませんが、あなたによく考えていただきたいのです。

「不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。」

今日の世界で不法がはびこっていると思いますか。「いいえ」と言う人は一人もいないでしょう。イエスは、不法がはびこり、その結果どうなると言っていますか。「多くのクリスチャンの愛は冷たくなる」です。ここで言われている「愛」とは、アガペーで、キリスト教の愛に特別に用いられる単語です。ですから、世界の不法の圧力のもとで、私たちクリスチャンの愛が冷たくなるのです。
次の 13 節は非常に重要です。

「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。」

あなたは今救われていますが、救いにとどまるためには耐え忍ばなければなりません。このように私が言うと、人々は喜びませんが、忍耐を学ぶ方法は唯一、忍耐することです。ですから、もし今、あな

たが耐え忍んでいるなら、神は終わりの日を生き抜くために、あなたを訓練しておられるのだということを忘れないでください。
　そしてこう言っています。

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ…」

　あなたは、「時代が良くなったら、行って福音を宣べ伝えよう」と思うかもしれません。いいえ、そうではありません。時代はますます困難になります。出て行って福音を伝えるためには根性が必要です。根性という言葉は下品だと思うかもしれません。アメリカ人向きの翻訳は、粘り強さです。それこそ、私たちに必要なものです。根性のあるクリスチャンです。状況は容易になっていくのではなく、さらに困難になります。今でも十分困難だと思われるかもしれませんが、さらに困難になる前に、速やかに行動しましょう。

　このように、イエスが願っておられる教会は、反対や迫害によって抑止されることなく、イエスとイエスの目的、働きに献身する教会です。

　イエスの再臨に関連する出来事に移りましょう。それらを少しリストアップしてみます。順序にこだわる必要はありません。なぜなら、正しい順序が何か私は知らないからです。正しい順序を知っていると確信している何人かの聖書学者に会いましたが、その順序は彼らの間でも一致していません。ですから、私はそのことを主にゆだねています。答えを求めて神にせがむことはしません。ダビデはある時、こう言いました。「まことに私は、自分のたましいを和らげ、静めました。私のたましいは乳離れした子のように御前におります。イスラエルよ。今よりとこしえまで主を待て。」（詩篇 131）。

　私にとって、とても鮮明な出来事がありました。何年か前、私は大勢のアフリカ人を前に定期的にメッセージしていました。前から 2 列目まで授乳中の母親たちのための席で、赤ちゃんがぐずり始めると、母親は私の目の前で授乳を始めます。ですから、私は前から 2、3 列目を見ないようにしていましたが、あることに気づきました。離乳していない子どもは、食べ物がほしくなると騒ぎますが、離乳した子どもは母親が食べ物を用意するのを待っているのです。ダビデは言いました。「私のたましいは乳離れした子のようです。私の問題で神を煩わせません。ただ、神が私に示したいことを神に示していただくだけです。」聖書の預言を理解するための鍵は、どのような時も、聖霊があなたに示したいと思っていることにあなたの注意を集中させることです。乳離れしていない子どものようになってはいけません。

　では、いくつかの出来事を見ましょう。真のクリスチャンの復活と裁きです。第一に「携挙」です。携挙についてどう感じますか。Ｉテサロニケ 4 章を見ましょう。あるクリスチャン学者は新約聖書には携挙という言葉はないと言うでしょう。それは幼稚な考えです。それは、どの翻訳によるかの問題だからです。私は携挙という言葉を使っている聖書訳も用いていますが、それは完全に正確な翻訳です。Ｉテサロニケ 4：15、これは、パウロを通して主が言われたことです。

「私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。」

つまり、主が来られたときに、生きている者たちがすでに死んでいる人たちよりも優先されるのではない、ということです。逆にパウロはこう言っています。

「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。」

人々がどうして隠れた携挙というものを信じるのか、私にはわかりません。私にとっては、天からの号令と御使いの声と神のラッパの響きで知らされるものほど公然としたものはありません。終わりの日に秘密はもはやなく、すべてが明らかにされます。

「それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり…」

生きている私たちが変えられる前に、

「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ…」

「一挙に引き上げられ」というのは、携挙の完璧な訳です。携挙という言葉は、ラテン語の「強制的に何かを奪い取る」という意味の語から来ています。そしてギリシャ語では、その語は泥棒が家に入って物を盗むときに使われます。狼が羊の群れの中に入って来て、一匹奪っていくときに使われます。基本的には突然、強引に奪うことを示します。携挙とは、そのようなものなのです。イエスは手を伸ばして突然に、力強く私たちをつかみます。イエスと泥棒の違いが一つだけあります。泥棒は他人のものを奪いますが、イエスは再臨の時にご自分のものである人々だけを連れて行きます。

「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに…」

そしてパウロは別の箇所（Ⅰコリント 15：52）で、私たちは一瞬の間に変えられると言っています。これには非常にワクワクします。もしあなたがワクワクしないなら、あなたに問題があります。たとえば、私が瞬きしている一瞬の間に、目の前にいる妻が完全に変えられ、光り輝く素晴らしい被造物になります。私もまた変えられます。妻も驚いて私を見ます。それはあっという間です。一瞬のうちに、私たちは完全に造り変えられるのです。神にそれができると信じますか。私は信じます。とてもワクワクします。もしあなたがワクワクしないなら、その理由が私にはわかりません。

携挙に続いて、クリスチャンの裁きがあります。それに気づいていないクリスチャンもいますが、最初に私たちが裁かれます。ペテロは、裁きは神の家で始められなければならないと言っています。神の家とは何でしょう。教会です。これについては、永遠のさばきについての学びでまたお話ししますが、少し見てみましょう。Ⅱコリント 5：10 です。

「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて…」

「現れて」という翻訳は、「実際に明らかにされる」ことを意味します。それはとても恐ろしい言葉です。私たちについてのすべてが完全に知られ、秘密は一つもありません。私たちはみな、キリストの裁きの座の前に明らかにされるのです。ギリシャ語で裁きの座は bema で、ローマの役人が裁判で座る席

です。それこそ、ポンテオ・ピラトがイエスを裁いたときに座っていたものです。別の場面で、残された者たちの裁きのための大いなる白い御座というのがあります（黙示録 20：11)。これはクリスチャンの裁きです。そしてローマ 8：1 を心に留めておいてください。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

それは有罪判決の裁きではなく、私たちの奉仕の質を評価し、適切な報いを与えるさばきです。パウロは、私たちはみな、キリストの裁きの座の前にすべて現れると言っています。

「私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」

善か、悪かの 2 種類しかありません。ヨハネは最初の書簡（ヨハネの手紙第一）で、正しくないものはみな、罪であると言っています。正しくないことはすべて罪です。それは、「曲がる」という言葉を説明するようなものです。私ならこう説明するでしょう。人々に直線を見せて、その線から少しでもそれているものはすべて曲がっていると言います。たった 1 度のずれでも、90 度のずれでも、それは曲がっています。

義とはそういうものです。義でないものはみな罪深いのです。良くないものはすべて悪いことです。中間はありません。敵が教会に押し付ける嘘とはこうです。「私は正しいことをしていませんが、悪いこともしていません。」それはあり得ません。どちらか一方です。

これがキリストの裁きの座です。そのあと、私たちは反キリストとその力を倒すのです。Ⅰヨハネ 4 章でヨハネは反キリストについて 3 つの方法で語っています。反キリストの霊、多くの反キリストたち、反キリスト者です。
反キリストの霊とは、すべての反キリスト者を通して働く霊のことです。

多くの反キリスト者は西暦 2 世紀以降に現れました。最も知られているうちの一人が、自分はメシアだと宣言したバル・コクバで、ユダヤ人たちを率いてローマへの最後の反乱を起こしましたが、その反乱は完全に鎮圧され、全国民が殺されるか捕虜にされました。もう一人は、17 世紀のサバタイ・ツヴィで、自分はメシアだと主張し、ユダヤ人を中東に帰らせ、彼らの土地に入植すると言いました。彼は中東に行き、トルコ人に捕らえられ、イスラム教に改宗しました。残念なことです。ユダヤの百科事典には、イエスの時代以降、ユダヤ人のもとに現れた 40 人の偽メシアが記録されています。イエスは言われました。「わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。」このように、教会には多くの反キリスト者が存在してきましたが、それらを特定する必要はありません。

しかし、本当の反キリストはまだ来ていません。私は個人的に、反キリストの影は人類の歴史の舞台を横切ってきたと思いますが、まだ現れていません。彼は悪とサタン的なすべてのものの最終的な化身となるでしょう。彼が人類を支配する時、それはおよそ 3 年半ですが、人類史上で最悪の期間となるでしょう。神がそれを許されるのは、人類に向かってこう言われるからです。「あなたがたが選んだものを

見よ。あなたは私を拒絶し、御子を拒絶した。これがその代償だ。自業自得だ。」

神は理論だけで教えるのではないと気づきましたか。あなたは、このように言うことができます。「神さま、その原則を学びました。」神は言われます。「それは良かった。では、それがあなたの人生でうまく適用できたかどうか見てみよう。」それは人類にも当てはまり、人類は今まであった最も恐ろしい教訓を受けるのです。ポンテオ・ピラトは、ユダヤ人の前にイエスとバラバという二人の男を連れてきました。バラバは凶暴な犯罪人で暴力的で扇動者でした。ピラトは言いました。「どちらを釈放してほしいのか。」すると人々は、「バラバを渡せ。イエスを十字架につけろ」と言いました。この世の終わりには、人類は同じようなことをするでしょう。人々は、「私たちにはキリストはいらない。私たちが選んだリーダーを引き渡せ。この人は才能ある優秀で超自然的な力を持っている。私たちは彼を望む」と言うでしょう。ピラトの前で何が起こったでしょう。ユダヤ人はその人を得て、ピラトに言いました。「私たちにはカエサル以外の王はいない。」ユダヤ人がそのように言うことは驚くべきことです。19 世紀もの間、彼らはカエサル一派に支配され、バラバ一派はその抑圧を解いて来ました。それがユダヤの歴史の本質です。同じことが人類に起ころうとしています。私たちは自分たちが選んだものを手に入れようとしています。イエスを選ぶ人は、イエスの統治のもとに置かれます。イエスを拒絶する者は、反キリストの支配のもとに置かれます。

続けましょう。黙示録 19：19-21 の反キリストの打倒です。イエスが白い馬に乗って天から現れる場面です。あなたは天に馬がいると信じますか。私は信じます。

「それに乗った方は、『忠実また真実』と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。」

イエスが戦われることに注目してください。

「その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があって…」

そして 15、16 節です。

「この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。その着物にも、ももにも、『王の王、主の主』という名が書かれていた。」

これは、イエスが悪と戦うために、神が任命した統治者として現れたということです。
そして、同じ章の少し先の 19-21 節にこう書かれています。

「また、私は獣（反キリストの名）*と…」*

聖書の最後の書である黙示録はとても興味深く、対立する 2 つの性質がセットで登場します。一つは小羊で、もう一つは獣です。小羊はイエスで、獣は反キリストです。「小羊」という言葉は、黙示録に 28 回出てきます。獣は反キリストに関連して 33 回出てきます。これは終わりの時の獣と小羊の戦いです。どちらが勝つでしょう。もちろん小羊です。私たちは暴力によって勝つのではなく、また憎しみによっ

てでも、強さによって勝つのでもなく、イエスのように自分のいのちを捨てることによって勝利するのだということは、私たちに対する教訓です。黙示録 5 章で、ヨハネは誰も巻き物を開ける人がいないので泣いたことを覚えていますか。長老の一人が言いました。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得た…」どうか忘れないでください。イエスは今もユダ族の獅子です。ユダという語から取った名前を知っていますか。ユダヤ人です。イエスは今もユダヤ人です。イエスは 33 年間だけユダヤ人であっただけではなく、永遠にユダ族なのです。あなたがユダヤ人と関わる時、イエスにある兄弟姉妹と関わっているのだということを心に留めておいてください。
19-21 節。

「また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。すると、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕らえられた。そして、このふたりは、硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。残りの者たちも、馬に乗った方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥が、彼らの肉を飽きるほどに食べた。」

それが、神のごみの処理方法です。鳥です。鳥はすべてをきれいに片づけます。骨だけをきれいに残します。エゼキエル書でそれらの骨の埋め方が見られますが、詳しく説明しません。

このすべてのことのただ中で、19 世紀もの間、歴史の中心から省かれてきたイスラエル、つまりユダヤ人は、歴史の中心に戻ってきています。ご存知の通り、イスラエルはとても小さな土地です。イギリスのウェールズ州よりも、アメリカのニューハンプシャー州よりも小さく、400 万人のユダヤ人と 100 万人の他民族がいるだけです。しかし、イスラエルのニュースは毎日のように流れます。なぜでしょうか。それは、イスラエルが世のクライマックスのために舞台の中心に戻ってきているからです。その場所こそ、クライマックスの時に彼らがいる場所なのです。

さて、ローマ 11 章に非常に重要な啓示が書かれています。ローマ 11：25-26 です。これらのことばは異邦人、すなわち非ユダヤ人のクリスチャンに向けてパウロが言っていることです。クリスチャンのほとんどは異邦人です。妻はユダヤ人ですが、少数派です。私も異邦人です。クリスチャンでない人は異教徒ですが、ユダヤ人でない人は異邦人です。これは一部の人にとっては理解しがたいことかもしれません。パウロは異邦人のクリスチャンに向けて、こう書いています。ローマ 11：25 です。

「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。」

うぬぼれてはいけません。思い上がってはいけません。奥義とは何でしょう。

「その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり…」

「一部がかたくなになった」ことに注目して下さい。ユダヤ人全体が完全にかたくなになったことは決してなく、どの世代においてもイエスを信じていたユダヤ人は常にいました。時には彼らは非常に少数派でした。しかし、一部がかたくなになることは、イスラエルに永遠に起こったのではなく、ある時

までです。いつまでですか。「異邦人の完成のなる時まで」です。教会がその働きを成し終え、この御国の福音がすべての国民に宣言されるまでです。同時に、主は異邦人の収穫を集め始めています。私は、教会がこれまでに見てきたことのないほどの大いなる収穫がなお先にあると信じます。何百万人という人々が神の国にやって来ると信じます。しかし、それはイスラエルの回復への準備であることを心に留めておいてください。

そして、パウロは 26 節でこう続けています。

「こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。」

イスラエルは、聖書がすべての国民が救われると言っている唯一の国です。ニュージーランド人のすべての国民やイギリスのすべての国民、あるいはアメリカやロシアでもなく、イスラエルのすべてが救われるのです。

一方で、すべてのイスラエルとは、現在生きているすべてのイスラエル人ではないことを覚えておいてください。パウロはローマ 9：27 でイザヤ書を引用してこう言っています。

「また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。『たといイスラエルの子どもたちの数は、海べの砂のようであっても、救われるのは、残された者である。』」

残された者とは、神が預言してご自身のために選んだ残された者です。ですから、現在イスラエルの地に生きているユダヤ人全員ではなく、神がご自分のものとさせるために、大いなる苦難と試練、苦しみを切り抜けさせる残りの者です。

それから、イエスが異邦人の国々を裁く時が来ます。これは、ヨエル書 3：1-2 に描かれています。このことは、ユダヤ人でない私たちが理解するために、非常に重要なことです。ヨエル 3：1-2。

「見よ。わたしがユダとエルサレムの繁栄を元どおりにする、その日、その時…」

つまり、100 ヶ国以上に散らばるユダヤ人たちを、神が彼ら自身の土地に連れ戻している時代に、私たちは生きているのです。神は言われます。

「わたしはすべての国民（異邦の国々）*を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り…」*

ヨシャパテとは、ヘブル語で「主は裁く」という意味です。

「その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。」

これは、理解しなければならない非常に重要なことです。神は、ユダヤ人をどのように取り扱ったかに基づいて国々を裁きます。特に、神の土地を分け取ったことについて裁きます。現代の政治用語で言うならば「分割」です。それはまさに国々がやってきたことであり、今まさにやろうとしていることです。神はその国々に怒っています。自分の国を愛する私たちは、私たちの国がイスラエルのための神の

目的に反して結束することがないように、緊急の祈りをする必要があります。

そこには、すべてのユダヤ人が裁かれるとは書いてありません。私の個人的な意見ですが、ユダヤ人はすでに受けるべき裁き、大きな苦難を通ってきたと思います。何年も前、ある人がこのようなことを言っていました。「神はユダヤ人を直接祝福し、ユダヤ人を通して異邦人を祝福する。神は異邦人を直接裁き、異邦人を通してユダヤ人を裁く。」このことは、歴史の中で繰り返し起こってきたと思います。

ですから、イスラエルは大患難の中で自分たちの裁きを通るでしょう。彼らは裁かれますが、その後、彼らを迫害した国々が裁かれるのです。マタイ 25 章でイエスが言っていることは、新約聖書の中でヨエル 3 章を明らかに示しているのです。マタイ 25：31、32 です。

> *「人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。そして…」*

これは、ヨエル３：1 と同じ場面です。

> *「…すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け…」*

その章を学んだ事がある人は、より分けられる基準は、イエスにある兄弟姉妹をどのように取り扱ったかであると気づきます。ですから、国々は知らなければなりません。私たちは自分の国に知らせる必要があります。声を上げて警告しなければなりません。「神の民と神の土地であるイスラエルをどう取り扱ってきたかによって裁かれる」と。

それに続いて、地上にキリストの御国が確立します。あなたが主の祈りを祈る時、この地にキリストの御国が確立するように祈っていることに気づいていますか。最初の願いは、「御国を来たらせたまえ」です。それは他のすべての願いよりも優先されます。あなたが気付いていなくても、主の祈りを祈る時、イエスの再臨と地上に神の国が確立することを祈っているのです。これはイザヤ 24：19 に書かれています。聖書の預言の知識を持つことがどれほど重要かわかるでしょう、このイザヤ 24：19-23 は、ある意味、時代のクライマックスです。それは黙示録で何度も繰り返されており、次のような様子です。

> *「地は裂けに裂け、地はゆるぎにゆるぎ、地はよろめきによろめく。地は酔いどれのように、ふらふら、ふらつき、仮小屋のように揺り動かされる。そのそむきの罪が地の上に重くのしかかり、地は倒れて、再び起き上がれない。」*

これは、私たちが住む地球なのです。

> *「その日、主は天では天の大軍を、地では地上の王たちを罰せられる。」*

主は 2 つの王国を取り扱われます。空中にあるサタンの王国と地上にある人間の王国です。主は、イエスの義の統治を拒む者をすべて罰します。

「彼らは囚人が地下牢に集められるように集められ、牢獄に閉じ込められ、それから何年かたって後、罰せられる。」

そして、これがクライマックスの節です。

「月ははずかしめを受け、日も恥を見る。万軍の主がシオンの山、エルサレムで王となり、栄光がその長老たちの前に輝くからである。」

主の御国は、その首都エルサレムで再建されます。なぜ、太陽が恥を見、月もはずかしめを受けるのでしょうか。ルカ 9：26 はイエスの再臨の記述です。イエスは言われました。

「もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします。」

考えてみてください。イエスはご自身の栄光、父の栄光、そして聖なる御使いの栄光の中で来られます。その栄光の輝きは、私たちが想像を絶するものですが、その輝きは私たちの目を傷つけることはありません。しかし太陽と月は後ずさりして、こう言います。「私たちが与える光は、イエスとともに来る光とは比べものにならない。」それが、太陽と月が恥を見るという理由です。

次に起こることは、イエスが千年の間、ご自分の王国を確立することです。聖書は、千年は一日のようだと言っています。ですから、主の計算では、それは一日なのです。

サタンが牢からしばらくの間解き放たれ、出て行って、国々の中で反逆をあおります。それがサタンの仕事です。主が介入して国々に最後の裁きを下し、サタンはすでにそこにいる反キリストと偽預言者とともに火の池に投げ込まれます。現在の天と地は過ぎ去り、新しい天と新しい地が現れます。残されているすべての死者は、神の裁きの大きな白い御座の前に立ちます。

神さま、明日も私を助けてください。神が助けてくださるなら、私は生きて神の永遠の裁きに対処します。主の祝福がありますように。